

## 感染分子解析学分野

### A 欧文

#### A-a

1. Atarashi R, Satoh K, Sano K, Fuse T, Yamaguchi N, Ishibashi D, Matsubara T, Nakagaki T, Yamanaka H, Shirabe S, Yamada M, Mizusawa H, Kitamoto T, Klug G, McGlade A, Collins SJ, Nishida N: Ultrasensitive human prion detection in cerebrospinal fluid by real-time quaking-induced conversion. *Nat Med.* 17(2):175-178, 2011 (IF:25.430) \*◇
2. Tsujino A, Kaibara M, Hayashi H, Eguchi H, Nakayama S, Sato K, Fukuda T, Tateishi Y, Shirabe S, Taniyama K, Kawakami A: A CLCN1 mutation in dominant myotonia congenita impairs the increment of chloride conductance during repetitive depolarization. *Neurosci Lett.* 25:494(2):155-160,2011 (IF:2.055) \*
3. Kawashiri SY, Kawakami A, Iwamoto N, Fujikawa K, Satoh K, Tamai M, Nakamura H, Okada A, Koga T, Yamasaki S, Ida H, Origuchi T, Eguchi K: The power Doppler ultrasonography score from 24 synovial sites or 6 simplified synovial sites, including the metacarpophalangeal joints, reflects the clinical disease activity and level of serum biomarkers in patients with rheumatoid arthritis. *Rheumatology (Oxford).* 50(5):962-965, 2011 (IF:4.171) \*
4. Satoh K, Nakaoka R, Nishiura Y, Tsujino A, Motomura M, Yoshimura T, Sasaki K, Shigematsu K, Shirabe S, Eguchi K: Early detection of sporadic CJD by diffusion-weighted MRI before the onset of symptoms. *J Neurol Neurosurg Psychiatry.* 82(8):942-943, 2011 (IF:4.791) \*
5. Takakura I, Miyazawa K, Kanaya T, Itani W, Watanabe K, Ohwada S, Watanabe H, Hondo T, Rose MT, Mori T, Sakaguchi S, Nishida N, Katamine S, Yamaguchi T, Aso H: Orally administered prion protein is incorporated by m cells and spreads into lymphoid tissues with macrophages in prion protein knockout mice. *Am J Pathol.* 179(3):1301-1309, 2011 (IF:5.224) \*★
6. Matsui Y, Satoh K, Miyazaki T, Shirabe S, Atarashi R, Mutsukura K, Satoh A, Kataoka Y, Nishida N: High sensitivity of an ELISA kit for detection of the gamma-isoform of 14-3-3 proteins: usefulness in laboratory diagnosis of human prion disease. *BMC Neurol.* 11:120, 2011 (IF:2.136) \*
7. Koga T, Okada A, Kawashiri S, Kita J, Suzuki T, Nakashima Y, Tamai M, Satoh K, Origuchi T, Iwamoto N, Yamasaki S, Nakamura H, Migita K, Ida H, Ueki Y, Eguchi K, Kawakami A: Soluble urokinase plasminogen activator receptor as a useful biomarker to predict the response to adalimumab in patients with rheumatoid arthritis in a Japanese population. *Clin Exp Rheumatol. Sep-Oct;29(5):811-815, 2011 (IF:2.358) \**
8. Ishibashi D, Yamanaka H, Mori T, Yamaguchi N, Yamaguchi Y, Nishida N, Sakaguchi S: Antigenic mimicry-mediated anti-prion effects induced by bacterial enzyme succinylarginine dihydrolase in mice. *Vaccine.* 29(50):9321-9328, 2011 (IF:3.572) \*★◇

#### A-b

1. Atarashi R, Sano K, Satoh K, Nishida N: Real-time quaking-induced conversion: A highly sensitive assay for prion detection. *Prion.* 5(3):150-153, 2011 (IF:2.468) \*

### B 邦文

#### B-c

1. 佐藤克也, 調 漸: 認知症学□下—その解明と治療の最新知見—. (日本臨床, 日本臨床社, 大阪, 69 巻増刊号 10) 2011
2. 新 竜一郎, 佐藤克也: II. 本年の動向 7)プリオン病の髄液診断の可能性. (鈴木則宏, 祖父江 元, 荒木信夫, 宇川義一, 川原信隆 (編): 神経, 中外医学社, 東京, pp.121-129 所収) 2011

#### B-d

1. 中村龍文, 山崎聡士, 中村英樹, 佐藤克也: 免疫性神経疾患に関する調査研究, HTLV-1 の細胞間感染伝播における CXCR4 シグナルの関与. 厚生労働科学研究費補助金(難治性疾患克服研究事業)平成 23 年度分担研究報告書. 2011

### 学会発表数

A-a	A-b		B-a	B-b	
	シンポジウム	学会		シンポジウム	学会
3	0	9	0	0	4

### 社会活動

氏名・職	委員会等名	関係機関名
西田教行・教授	長崎県医師会生涯教育認定講座	長崎県医師会

佐藤克也・講師	諫早市 認知症研究会	諫早市医師会
佐藤克也・講師	BPSD を考える会	長崎市医師会
佐藤克也・講師	大村市 認知症研究会	大村市医師会
佐藤克也・講師	東彼杵 認知症研究会	東彼杵郡医師会

### 競争的資金獲得状況(共同研究を含む)

氏名・職	資金提供元	代表・分担	研究題目
西田教行・教授	農林水産省	代表	鳥インフルエンザ、BSE、口蹄疫等の効率的なリスク低減技術開発 BSE グループ BSE 対策に資する基礎的知見の集積及び高精度検査技術の開発
西田教行・教授	文部科学省	分担	研究拠点形成費等補助金(21世紀 COE) 熱帯病・新興感染症の地球規模制御戦略拠点
西田教行・教授	厚生労働省	分担	厚生労働科学研究費補助金(難治性疾患克服研究事業) プリオン病及び遅発性ウイルス感染症に関する調査研究
新 竜一郎・准教授	厚生労働省	分担	厚生労働科学研究費補助金(食品の安心・安全確保推進研究事業) 食品を介する伝達性海綿状脳症のリスクと対策等に関する研究
新 竜一郎・准教授	日本学術振興会	代表	基盤研究(B) 遺伝性プリオン病を対象とした病態機構の解明と克服への展開
新 竜一郎・准教授	独立行政法人科学技術振興機構	代表	若手研究者の自立的な研究環境整備促進 感染症創薬研究推進拠点形成 トランスレイショナルリサーチ分野「異常型プリオンタンパク試験管内増幅法を用いたプリオン病の早期確定診断法」の開発
佐藤克也・講師	厚生労働省	代表	厚生労働科学研究費補助金(難治性疾患克服研究事業) プリオン病のサーベイランスと感染予防に関する調査研究
石橋大輔・助教	日本学術振興会	代表	若手研究(B) プリオン仮説は本当か? 宿主自然免疫機構から探る真の病原体
布施隆行・助教	日本学術振興会	代表	基盤研究(C) プリオン感染に関与する異常型プリオンタンパク質以外の因子解明
松原岳大・助教	日本学術振興会	代表	若手研究(B) プリオン関連蛋白質による神経細胞変性死へのグルタミン酸受容体の関与とその分子機構
佐野和憲・助教	日本学術振興会	代表	若手研究(B) 孤発性クロイツフェルトヤコブ病におけるプリオン自然発生機構の解明

## 特 許

氏名・職	特 許 権 名 称	出願年月日	取得年月日	番号
佐藤克也・講師	14-3-3 蛋白 $\gamma$ アイソフォーム特異的 ELISA	2011 年 11 月 8 日	出願中	特願 2011-244809

## その他

### 新聞等に掲載された活動

氏名・職	活動題目	掲載紙誌等	掲載年月日	活動内容の概要と社会との関連
西田教行・教授 新 竜一郎・准教授 佐藤克也・講師	プリオン病の高感度髄液診断法の確立	長崎新聞	2011 年 1 月 31 日	ヒトプリオン病の生前での確定診断には脳生検しかなかったが、新規髄液検査法を開発し、確定診断への道を開いた
西田教行・教授 新 竜一郎・准教授 佐藤克也・講師	プリオン病の高感度髄液診断法の確立	日本経済新聞	2011 年 1 月 31 日	ヒトプリオン病の生前での確定診断には脳生検しかなかったが、新規髄液検査法を開発し、確定診断への道を開いた
西田教行・教授	プリオン病の高感度髄液診断法の確立	朝日新聞	2011 年 2 月 8 日	ヒトプリオン病の生前での確定診断には脳生検しかなかったが、新規髄液検査法を開発し、確定診断への道を開いた
新 竜一郎・准教授	血液及び脳脊髄液中のプリオン検出の新開発	Nature Reviews Neurology	2011 年 April	Real-time quaking の方法について掲載された
西田教行・教授	クロイツフェルト・ヤコブ病の新しい診断法	Highlighting JAPAN	2011 年 Oct	クロイツフェルト・ヤコブ病の新しい診断法について掲載された

### 学術賞受賞

氏名・職	賞 の 名 称	授与機関名	授賞理由、研究内容等
新 竜一郎・准教授	長崎県科学技術大賞	長崎県	「超高感度プリオン検出法の開発」研究活動において顕著な成果を収め、また独創的で将来性のある研究活動を行っており、その功績が県内における研究者の育成及び研究意欲の高揚を図り、長崎県の科学技術の振興、産業の発展及び県民生活の質の向上に寄与すると認められた。